環境配慮と包装改善に注力

作業性向上で〝働き方改革〟に貢献

ユーザー（包装）探訪

SDGsを具現化するため、環境配慮に向けて包装改善の取り組みが活発化している。持続可能な社会実現に自社が製造、販売する製・商品が方向性にマッチングしているのかどうかなど、模索、検証を進めながら着実に行動するケースが増えている。また、〝働き方改革〟に取り組み、包装改善活動を通じて作業効率を大幅に向上させた事例も数多く出ている。今回の「ユーザー（包装）探訪」は、プラスチックの使用量を減らすため、封緘材を見直し、水だけで貼れる「ガムテープ」を採用。自社で進める〝環境配慮〟への取り組みと作業性が改善された事例に迫ってみたい。ユーザーの包装担当者、注目資材メーカーの現状の取り組みなどと合わせ紙面を構成してみた。

SDGs貢献を着実に

グループの梱包材のエコ化推進

島津製作所／島津ロジスティクスサービス

島津製作所（京都市中京区）は、事業活動を通じSDGsへの貢献を着実に進めており、サーキュラー・エコノミー（CE）への具現化が注目される中、事業活動におけるCO_2排出量削減、再生エネルギーの導入加速に取り組んでいる。その一環としてプラスチック削減を推進。事業上の脱プラスチック

製品梱包で採用されるガムテープとディスペンサー

紙ガムテープの印刷デザイン

包装作業現場

は、グループ企業「島津ロジスティクスサービス（SLS）」による梱包材のエコ化から着手。段ボールケース梱包の封緘材に水だけで貼れる「紙ガムテープ」（三陽工業製）を採用し順次導入を進めている。包装資材における環境負荷低減活動へ、具体的行動に取り組む島津グループに迫ってみた。

島津製作所は計測機器事業、医用機器事業、産業機器事業、航空機器事業の4事業を展開しており、グループにおける事業環境が変化する今を新たな成長の機会と位置付け、持続的成長に資する事業の強化と新事業の創出に取り組んでいる。

特に、1875年の創業以来140年以上にわたる歴史を通じ、社是の「科学技術で社会に貢献する」、および経営理念の『人と地球の健康』への願いを実現する」との基本的考え方のもと事業を通じSDGsへの取り組みを推進。社内的にも2018年4月「地球環境管理室」から「環境経営統括室」へ改称し、環境経営の取り組みを強化している。

SLSはグループ内のCE取り組みのトップランナーと位置付けられている。特に、プラスチック削減について検証を進めながら、製品保持材、部品緩衝材などで可能なものから〝脱プラスチック〟や〝バイオプラ材〟採用への取り組みを全社的に進めている。

注目されるのはグループで取り組む梱包材のエコ化の推進。SLSは島津グループ全体の物流を担うことから、輸配送や荷役、包装の場において、CO_2排出量の削減や使用後に廃棄物となる包装資材の3R活動など、これまでにも境負荷低減活動を推進。包装資材もオール段ボール化を目指して包装設計を行うなど、常に環境に配慮した材料の採用、プラスチック素材の減量化、リユースやリサイクルを進めている。

その中で「包装用紙ガムテープ」の採用はこれまで検討を重ね、昨年夏頃から「プラスチック削減として効果が高い」として評価し導入している。

もともと島津グループでは梱包作業現場で無地の紙ガムテープを使用していたが、コスト的にも安価なOPPテープや扱いやすいクラフトテープへと切り替わり、全社的にも「縮小傾向にあった」としている。

そうした中で「プラスチックの削減」という全社方針に伴い、紙ガムテープ採用へと行動を始めた。社内使用の状況を調査すれば、包装用テープ全体使用量は年間「1万2800巻」を使用。種類はOPPテープ、クラフト粘着テープ、紙ガムテープの3種類。それぞれのプラスチック使用量について社内調査したところ紙ガムテープの使用量ゼロに対し、クラフトテープ150キログラム、OPPテープ1300キログラムと合計で1・4トン余りの使用量の結果が得られた。

つまり、社内の包装用テープを紙ガムテープに全て置き換えた場合、プラスチック削減量は年間1・4トン余りとなり、環境負荷低減効果が高い包装資材との検証が得られた。

その検証結果をもとにSLSが主導的に可能なものから順次、切り替えを進めている。例えば、工場出荷時の製品外装箱は20種程度のサイズの標準段ボールと、その他専用サイズの段ボールを使用しているが、その多くで紙ガムテープを利用する。また、製品をPE袋などで包装後の封緘などはOPPテープの方が作業性も良いことからガムテープへの置き換えはしないなど、一つひとつ検証し進めている。

同社が採用する紙ガムテープは印刷適性が高く、「島津ブランドイメージ付与や環境貢献企業のアピールもできる」として、SLSから各事業部にロゴ付き紙ガムテープの採用を推進。「先日、海外の中国子会社から依頼があり中国にも出荷。将来的には世界中で採用していきたい」としている。

SLSのホームページで代表取締役社長の永野克己氏が「お客様のニーズを第一に考え、お客様の製品・サービスを安心・安全にお届けし、ご満足していただけるよう、社員一同全力で邁進してまいります」と意気込みを述べている。引き続き、地球環境に配慮したロジスティクスを目指し、環境負荷の小さい包装仕様や包装材・梱包材の採用、モーダルシフトの推進に挑戦する島津グループを注視していきたい。

スポットライト

紙ガムテープ普及に尽力（杉渕氏）
経営理念を英文で表示（青山氏）

島津ロジスティクスサービス 国際物流部 杉渕俊彦氏

島津ロジスティクスサービスは、島津グループ全体の物流を担うことから、輸配送や荷役、包装の場でのCO_2排出量の削減や使用後に廃棄物となる包装資材の3R活動など、境負荷低減活動を推進しています。マイクロプラスチックの問題など世界で深刻化している事象について、全社グループとして包装資材における環境負荷低減活動へと展開しています。

梱包材のエコ化について紙ガムテープのコストを含め有効性を技術検証しながら各事業部に説明し理解と協力が得られるように力を尽くしています。

島津製作所 総合デザインセンター 青山香織氏

ロゴ付き紙ガムテープのデザイン設計に携わり、高い評価の声をいただいています。

紙ガムテープの採用についてロゴ印刷ができることが最大の特徴です。現在、SHIMADZUの「ブランドシンボル」、「ユニバーサルリサイクルマーク」、そして経営理念に掲げる『人と地球の健康』への願いを実現する」を英文で表記しました。

海外の販社でも使ってもらえるものに仕上げたいとの思いを込めています。また、リサイクルマークもリサイクルの判別が容易に行えるようにとの願いを込めたものとなっています。

杉渕俊彦氏(右)、青山香織氏(左)